

県立博物館・美術館の今後の在り方について

1 県立博物館の沿革

- (1) 博物館設置構想と整備 2
- (2) これまでの博物館の見直し経緯 2
- (3) 今後の在り方検討の視点 3

2 博物館をめぐる現状と課題 議事資料 1-4

- (1) 博物館をとりまく社会状況の変化
- (2) 県内博物館の現状と県立博物館の現状と課題
 - ① 県内博物館の現状
 - ② 博物館資料の集約と保管
 - ③ 調査・研究
 - ④ 展示
 - ⑤ 教育普及

3 これからの県立博物館 議事資料 1-5

- (1) 県立博物館の役割
- (2) 博物館機能の強化・集約
 - ① 博物館資料の収集と保管
 - ② 調査・研究
 - ③ 展示
 - ④ 教育普及
- (3) 博物館在り方検討の方向性

1 県立博物館の沿革

(1) 県立博物館設置構想と整備

千葉県立博物館の整備は、昭和 43 年度の「県立博物館設置構想（案）」に基づき、昭和 45 年度に上総博物館が木更津市に設置されたことに始まります。

その後、昭和 48 年 3 月に、県内数か所に地域の特性を生かした専門性を有する地域博物館を、県の中心に総合センターとして中央博物館と美術館を設置し、それらを相互に結ぶネットワーク網を形成する「千葉県の博物館設置構想（別称：「県立博物館ネットワーク構想」）」が策定されました。

県立博物館の整備は、この構想のもと順次進められ、平成 11 年度までに県内各地に 10 館 1 分館を設置し、「県立博物館ネットワーク構想」は一応の到達点に達しました（表 1）。

表 1 平成 11 年度までの県立博物館整備状況

	名称	位置	設置年	テーマ
1	上総博物館	木更津市	昭和 45 年	くらしのなかの技術
2	安房博物館	館山市	昭和 48 年	房総の海と生活
3	美術館	千葉市	昭和 49 年	近現代美術と千葉県ゆかりの作家の作品
4	総南博物館	大多喜町	昭和 50 年	房総の城と城下町
5	房総風土記の丘	栄町	昭和 50 年	龍角寺古墳群と考古資料
6	大利根博物館	佐原市	昭和 54 年	利根川下流域の歴史・民俗・自然、千葉県の農業
7	房総のむら	栄町	昭和 61 年	房総地方の伝統的な技術や生活様式の実演と体験
8	中央博物館	千葉市	平成元年	自然誌を中心とし歴史も加えた総合博物館
9	現代産業科学館	市川市	平成 6 年	産業に応用された科学技術を体験的に学ぶ
10	関宿城博物館	関宿町	平成 7 年	河川とそれに係る産業、関宿藩の歴史
11	中央博物館分館 海の博物館	勝浦市	平成 11 年	房総の海の自然

(2) これまでの博物館の見直し経緯

平成 14 年度に、「千葉県行財政改革行動計画」が策定され、県有施設すべての見直しが図られることになりました。県立博物館においても、「市町村立博物館等の整備が進み、県立博物館が地域の博物館として果たす役割が相対的に減少した」ことから、「県立博物館ネットワーク構想」の方針転換を図り、県立博物館の再編及び地元市町への移譲等が検討されました。併せて、平成 16 年度からは、それまで通常期は無料であった博物館入場料が有料となり、県立博物館の展示には、それまで以上に「対価に見合ったサービス」としての質が求められることになりました。

施設の再編については(表 2)、平成 16 年度に、敷地が隣接する房総のむらと房総風土記の丘を統合し、房総のむらとなり、平成 18 年度には、大利根博物館と総南博物館を中央博物館の分館として再編し、それぞれ大利根分館、大多喜城分館となりました。また、房総のむらでは、平成 18 年度から指定管理者制度が導入されました。

地元市町への移譲については(表 2)、平成 20 年度に上総博物館が木更津市へ、平成 21 年度には安房博物館が館山市へ移譲されました。現在、移譲した各館は、それぞれ「木更津市郷土資料館 金のすず」、「館山市立博物館分館」として、地域に密着した活用、活性化が図られています。

表 2 これまでの県立博物館の見直し

年度	事項
平成 16 年	県立博物館・美術館の常設展示を有料化 「房総のむら」と「房総風土記の丘」を「房総のむら」に統合
平成 18 年	「大利根博物館」を「中央博物館大利根分館」に再編 「総南博物館」を「中央博物館大多喜城分館」に再編 「房総のむら」に指定管理者制度を導入
平成 20 年	「上総博物館」を木更津市へ移譲(「木更津郷土資料館金のすず」に)
平成 21 年	「安房博物館」を館山市へ移譲(「館山市立博物館分館」に)

以上の再編等により、平成 21 年度以降、県立博物館は 5 館 3 分館体制(直営 4 館、指定管理 1 館)となり現在に至っています(図 1)。なお、平成 27 年度以降の利用者数は、全館で年間 100 万人前後となっています(表 3)。

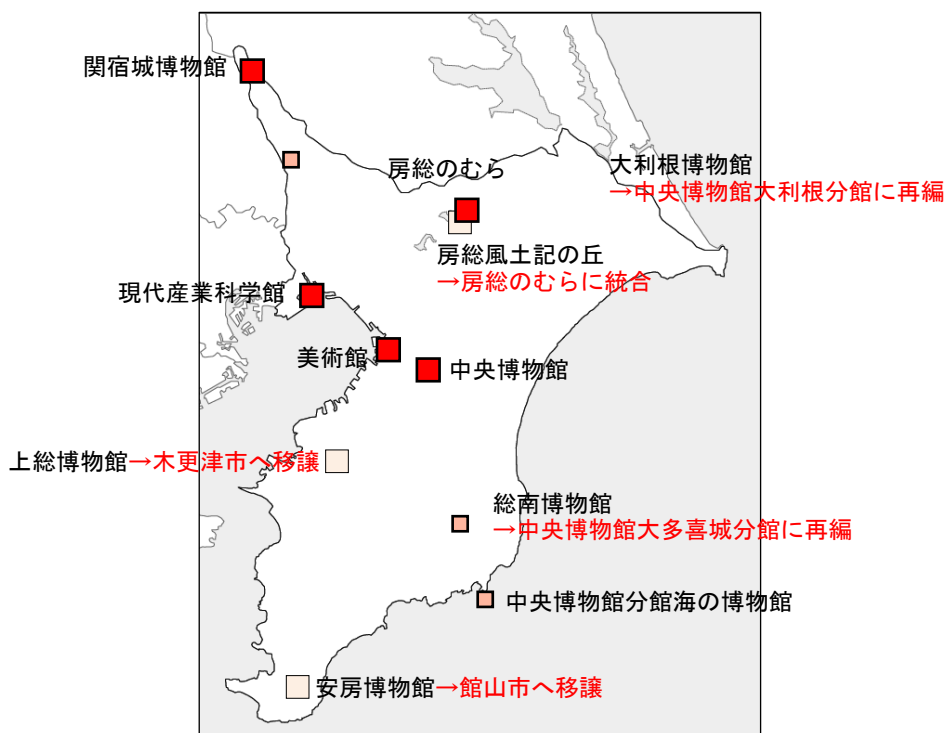


図 1 平成 21 年度以降の県立博物館

表3 県立博物館の入館者数及び利用者数

年度 館名	平成25年度 (入館者)	平成26年度 (入館者)	平成27年度 注3		平成28年度		平成29年度	
			入館者数	総利用者数	入館者数	総利用者数	入館者数	総利用者数
美術館 注1	0	30,036	122,573	127,109	119,915	218,234	118,914	129,770
中央博物館	184,059	142,635	143,954	158,974	166,596	174,202	126,518	143,978
大利根分館 注2	36,743	16,668	14,501	26,073	13,555	31,957	13,017	64,692
大多喜城分館	82,292	104,134	104,577	105,291	106,926	107,481	97,368	98,371
分館海の博物館	61,210	68,835	69,319	72,946	61,390	62,933	54,602	61,398
現代産業科学館	161,365	195,808	152,887	153,719	169,778	172,127	173,163	176,788
関宿城博物館	98,376	103,056	108,572	110,576	104,135	105,704	88,501	89,419
房総のむら	268,659	248,704	259,510	264,779	239,902	251,850	249,803	252,133
計	892,704	909,876	975,893	1,019,467	982,197	1,124,488	921,886	1,016,549

注1 平成25年1月から耐震改修等工事のため美術館休館、平成27年1月から再開館

注2 平成19年度より大利根分館は4～9月の6ヶ月開館

注3 「総利用者数」とは、入館者数と各館が実施する館外での事業に参加した人数を合算したものである。

(3) 今後の在り方検討の視点

平成28年2月に、「千葉県公共施設等総合管理計画」が策定され、施設の総量縮減、適正配置を推進することとし、同7月には、千葉県行政改革推進本部において、新たな「公の施設の見直し方針」が決定され、博物館・美術館は、現状の分散型の施設配置を見直し、機能の集約化、個々の施設への指定管理者制度の導入、地元市町への移譲の可能性を検討することが示されました。県立博物館・美術館の今後の在り方の検討では、これらの県施策を踏まえる必要があります。

また、生涯学習社会の進展や地域文化・科学に対する県民の関心の高まりに対応して、現在、県内各地には、市町村立等の博物館・美術館や歴史民俗資料館等の設置が進み、各県立博物館には、それらの博物館を支援する拠点施設としての役割が期待されるようになってきました。同時に、千葉県を取り巻く文化・社会の多様化や変容、資料の発掘・発見・分析等に伴う歴史研究の進展や、自然科学分野での研究の充実や新発見等に伴い、これらを踏まえた博物館としての調査・研究の更なる充実と、その成果の展示等をとおした県民への速やかな還元が求められています。一方、事業の面では、資料の陳列を中心とした展示に加え、参加・体験型事業や、高度化した情報技術を活用した展示解説、情報発信の需要が高まってきています。さらに、学校教育に加えて、地元自治体や社会教育施設等と連携・協同した地域振興・観光振興への貢献も求められるようになってきました。

こうした博物館・美術館への新たな要請に応えるには、これまでの各県立博物館の役割を見直しつつ中央博物館の機能を強化し、全県下を対象とした調査・研究の一層の充実と、適切な資料の収集・保管体制の再構築、それらに基づく魅力ある展示・発信体制の整備が必要です。また、多様なニーズに対応するためには、類似の資料を扱う図書館・文書館や社会教育施設との連携を進めるなど、施設の

垣根を超えた新たなサービスの開拓も必要です。加えて施設の老朽化や、博物館資料の収蔵スペースの狭隘化、I C T技術による展示機器の更新等、施設・設備面の課題についても検討する必要があります。